

NUA PRESS

2013 おかげさまで
no.20 発行 !!

「たくさん制作、そして挑戦！」

和田 唯奈さん(40期卒 絵画科洋画コース)



現在海外のギャラリーと契約をかわし、精力的に制作を続いている和田さん。昨年開催の「GEISAI #17」※にて、写真家鈴木心氏から「多分会場の中で一番ポジティブな作品(受賞時のコメント※2)」と評価を得たのは記憶に新しいところ。今年の4月に大学を卒業したばかりの和田さんの近況を伺います。



——在学中の「GEISAI#17 鈴木心賞」の受賞おめでとうございます。

受賞してどのような変化がありましたか?

受賞、そしてGEISAIのイベントを通じて、様々な出会いがありました。

今お世話になっているギャラリーのオーナーとはGEISAIの会場で出会ったんです。

——今所属なさっているところですね。どんなギャラリーですか?

オランダ、アムステルダムにある「Gallery Delaive」というギャラリーです。

——卒業後、作品制作に変化はありましたか?

家を借り、そこをアトリエにして制作しています。

おかげさまで、在学中とほとんど変わらないペースで制作できています。

今後、ギャラリーのあるオランダで滞在制作する予定もあります。

——在学中に制作への影響を受けた講義や先生はありますか?

全ての先生それぞれから、何らかの影響は受けていると思います。何か悩みごとができると、顔を合わせた先生片っ端から意見を伺って、考え

整理するようにしていました。
みなさんとても親切でした。感謝しています。

——海外での活動を教えていただけますか?

昨年冬と今年の春、いくつかアートフェアに出品させていただきました。12月にギャラリーで個展をします。

——これからの目標をお願いします。

とにかくたくさん制作したい。絵以外の媒体にも挑戦したいです。

——若くして作家としての活躍は素晴らしいですね、これからも卒業生に一言お願いします。

「お互いがんばりましょう!」

※アーティストの村上隆氏が実行委員会のチアマンとなり行われる、コミックマーケットやワンダーフェスティヴァルを雛形とした芸術複合イベント。「芸術大学の学園祭=ゲイサイ」を名前の由来とした。

※2 YouTube上「GEISAI TV」
[GEISAI#17 鈴木心賞受賞「和田唯奈個展」作家インタビュー]より参照
URL=<http://www.youtube.com/watch?v=sTK4XAF Ea5o>



作品上から
《Create》
《Drive》
《This Is Love》
木にミクストメディア

代表取締役としての責任とやりがい

中島 弘敬さん(4期卒 デザイン科ID専攻)

創業当時より勤めてらっしゃる会社を引き継ぎ、今では取締役社長。いろいろな重圧やご苦労があるかと思いきや、この時代にどこ吹く風のような中島さん。その元気はどこからくるのか？そしてどこへ向かっていくのか？会社訪問についていろいろお話を聞きました！

会社訪問当日。最寄り駅まで迎えにきていただけたことになったのですが、現れたのは社用の営業車に乗った中島さん。あまりにも気さくな雰囲気に早くもリラックスモードで取材が始まりました。

ニムラデザインの解散。「NDデザイン」の設立

——今日は暑い中、お時間割いていただきありがとうございます。

中島(以下N) なんでも好きなこと聞いてくれていいから！

——ありがとうございます。サイドボードにあるのは、ありし日の二村さんの写真ですか。

N そう、このNDデザインの前身「ニムラデザイン」はもともと1981年にスタートした会社です。そして僕が一番最初にその会社に入社したんですよ。

——ということは社員第一号？！が中島さんと。

N そうそう。実はニムラデザインに入る前の約5年間は、建築関係の会社で商業施設のデザインをしてたんだよね。プロダクトもやりたかったんだけど、その時はデッカイものを作るほうが面白いかなってことで、そっちを選んだ。

でもそのうちに、ずっとこれをやってるのもどうかなあと考え始めて、別に自動車がそんな好きってわけでもないんだけど、やっぱり工業製品のデザインをやりたくなったんだよね。

それで突然その会社を辞めて…。(笑)

——みなさんびっくりしたんじゃないですか？

N うん、もうその時は、結婚していたのだけど、ある時急に奥さんに「会社やめたから…」って言ったら、最初は冗談だったと思ったみたいで、暫くは本気してくれなかった(笑) それからプラプラしてたら、新聞広告に「社員募集：カーデザイナー求む…」なんて載っててね。

——今時、新聞広告にそんな素敵な採用情報載ってませんよ。

N ホントだよね。で、これは面白そうだと思ってダメもとで応募したら採用された。

それから会社もどんどん大きくなって最盛期は3つの事業部があって従業員37名まで増えた。この社屋は2階建てなんだけど、上のフロアまで人が一杯居たね。業務拡大も順調に進んで、資本金も4,800万と成り、デザイン会社としては大所帯になった。

でも2008年に三菱自動車からの資本提携解消を、転機に、創立者の二村も他界していたので、「ニムラデザイン」を解散する事になった。ただその後も、三菱自動車さんを含め多くのクライアントの方々からの励ましを貰って、解散した元社員を再結成して「NDデザイン」を創立したわけなんだ。

車からアミューズメントまで

——このアミューズメントのデザイン画を拝見



会社外観



NDデザイン社内の様子.写真左より

応接室のサイドボード。これまで関わった製品のミニチュアなど。故二村氏の写真も。/社長室にて/お菓子コーナーも完備/デザイン室の様子。現在は海外からも人材を採用中。

していると、車の造形をイメージさせるような、そんな印象がありますね。

N アミューズメントのデザインは、高度な造形センスが要求されるからね。今はライティングの演出も含めて提案している。

—こうやって車以外、他業界の仕事を広げていくことには抵抗感は無いんでしょうか？

N うん。うちの会社もリーマンショック以降は車関連の仕事が殆ど無くなっちゃった。元々は自動車のデザイン会社としてスタートして、最初は三菱自動車の仕事しかやってなかつた。でもその頃から僕はプロダクトデザインの中の一つとして、車というカテゴリーがあるという認識でいたからずっと車だけではなくて、いろいろなデザインのカテゴリーを増やしていく事を意識してやるようにしていた。飛行機もあったし、エアコンの仕事もあるという、その中の一つとしてアミューズメントも位置づけてる。

厳しい経済状況の中で、そんなに頻繁にプロダクトデザインの仕事も潤沢にあるわけでもない。それで、たまたまアミューズメント関連の仕事に少しだけ繋りがあった事と、幸いこの中部地方はパチンコメーカーが多いエリアでもあったから、いろいろな支援があって仕事を頂けるようになったんだよね。

だからアミューズメントに抵抗が無いというよりは、ひとつのデザインとして捉えてるね。

会社の理念としても掲げてて、この会社案内のどこかに書いてあるけど…どこだっけ(笑)

——ここですね。(会社案内を見ながら)「デザインを通して人とモノを繋ぐ事で社会に貢献する」の理念の下に…。つまり会社を支えていくという現実もあるけれど、それよりどんなデザインでも大事な仕事であると。

N そう、デザインを区別はできない。必要とされているものを如何に提供できるのかということを大事にしているね。だから自動車に特化しているワケではないよ。

例えば新規のクライアント様で、デザインから製品化まで一貫して面倒を見て欲しいけど、どこに頼んだらいいのかわからないなど、困っているお客様がいれば、企画から参加することもできるし、製品化できるまでおつき合いする。トータルでサポート出来るのがうちの強みだし、ポリシーもあるね。

だから今では製品のデザインは、もちろんのことノベルティグッズのデザインから展示会のブースデザインなど、プレゼンテーションまで手がけている。

——そういった様々なクライアントの悩みや要請に答えていくというのは大変なことだと思うのですが、やはりこれまでやってこられたお仕事の繋がりが生きていますか。

N そうだね、やっぱりベースは最初に車のデザインをやらせてもらったというのが大きいと思う。車って外装は板金、内装は樹脂。機械部品もあれば電装品もある…つまり工業製品の集大成なんだよね。広く浅くかもしれないけどそれなりの知識は持っている。逆にそれだけのも

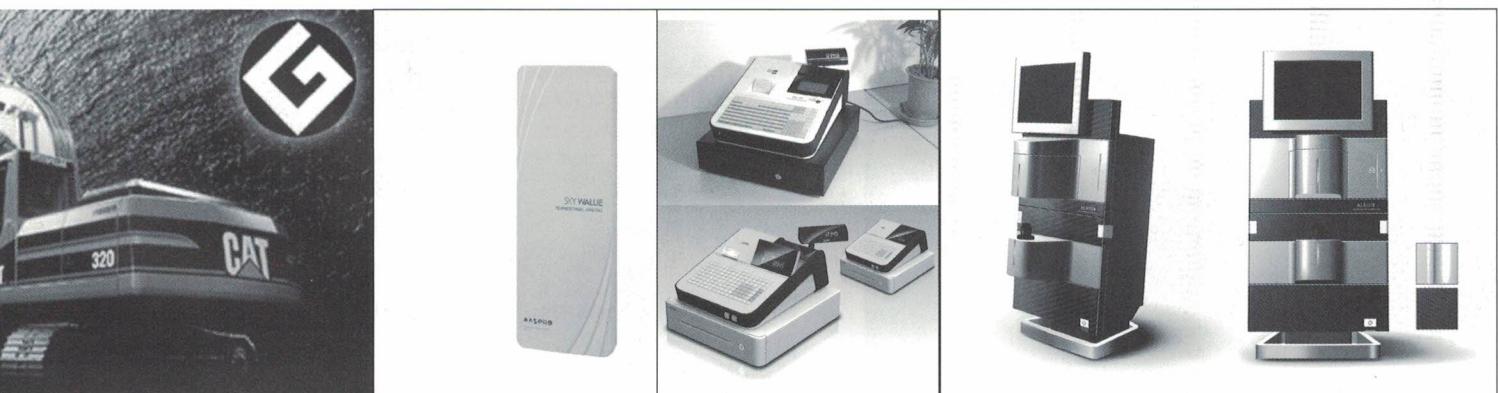
のがあるんだったら、いろいろなデザインをやらない手は無い。しかもそれが人の役に立つのならもっとね。

例えば1990年代の話だけれど、そのころのパワーショベルの内装ってほとんどが板金で出来ていて、パキパキしていた。人が乗るものだから、もっと柔らかく使い易いデザインを目指して、樹脂を使う提案をしたところ採用され、グッドデザイン賞に繋がった。

そんな風に何にも無いところに新しい風を吹き込むことができるっていうのかな、それがデザインの醍醐味であしさなんじゃないかなって思って、それを社員のみんなに享受してあげたい。彼ら自信の仕事への喜びも生まれてくるでしょ。

帰りの車の中で「社長としてしんどいなあ」なんて思う時はないですか?と伺うと、「それを考えてしまうと本当にしんどくなってしまう。人を雇うというよりも、僕がやりたい事を一緒に作り上げてもらう人と一緒に仕事しているだけなんだと考えるようになっているね。全く無いといえば嘘になるけど、お互い支え合っているわけだから。」そう仰った中島さん。きっとそのスピリットは会社や社員のみなさんに伝わっていると思います。

中島さんご自身のお人柄もありますが、何か勇気をもらえた様な、そんなお話を伺えたインタビューでした。これからも会社のご発展をお祈りしています!



デザインに拘った製品.写真左より：三菱自動車株、デザインスキッチ／新キャタピラーミニチュア、パワーショベル「REGA」(1992年)
マスプロ電工株、地デジアンテナ「スカイウォーリー」／クローバー電子株、EU向けレジスター／株トーメーコーポレーション、メガネレンズ測定器「TL5000」

日々、『おいしい』を研究中。

安田有里さん(旧姓 篠田)

24期卒 絵画科日本画専攻

パンとお菓子の工房「koha」を立ち上げた安田さん。

『自家製酵母のぱんと、からだに優しいお菓子のお店』として、店頭を飛び出しイベントに出店することも。

徐々に軌道に乗ってきたお店の話と大事にしていらっしゃる「日常」やこれからについて伺いました。

偶然繋がったkohaブログ。センスいいな…と読み続け、発信源を求めて辿り着いたのが、ナント名芸日本画卒の安田さん。不定期開店のお店を自宅横の手づくり工房にて展開させてます。

インタビュー依頼に『日本画描いてないけど…』と安田さん。いえいえ、自分らしく生きているってカッコイイです。いろいろ聞いたらしくありました。

——お店(工房)を立ち上げたきっかけを教えてください。

工房が出来ちゃったから?いいこと辛いこといろいろあったけど、うーん。

おいしいものが食べたい、それだけです。

——卒業してお店をオープンし、現在までの流れはどんな感じだったのでしょうか?

子どもが生まれてからネット上で何の成果も無いままで活動していました。頑張っていると誰かが見えてくれるんですね。

声をかけてくれる人がいて、「仕事」として成り立ったのはここ3、4年です。その間子育てしながら資金をかけずコツコツと。どうしたって聞かれることが多いですが、やっぱり運。私は運がいい。

——お店を立ち上げてから変化したことは?

特にないです。子供の心の負担にならないよう、出来るだけ変化しないように心掛けています。

——kohaのこだわりというなんでしょう?

あると言えばホントに感覚的な部分まで色々ありますか、ないと言えば無い。私が好きかどうかが基本。

——HPの写真、ステキですね。写真を撮るとき心掛けている事は何かありますか?

こだわっていませんが、カメラマンの友達から構図が絵画的だと言われた事が。

——日本画の経験は今のお店を立ち上げるにあたって、どんな風に繋がりましたか?

全て。絵も料理も写真も基本的に一緒。1つのことを追求する事、プロセスをキッチンと組み立てる事、自分を信じる事…。

——おすすめの料理本はありますか?

自然光で美味しそうに、魅力的に撮っている写真の料理本でしょうか。

味は、その後自分の舌で。

——最後にこれから夢を聞かせて下さい。

とりあえずこのまま。続けることが目標。子育てが一番優先ですので、成長とともに。けっこう形を変えて、表現する媒体を変えていくだけです。でも、おばあちゃんになったらまた絵を描きたい。日本画の道具も大切に取ってあるので。

ゆるぎない自分のスタイルを持って、無理なく、妥協なく、愛情と豊かな感性であたりまえのとびきり素敵な生活を組み立てている。やっぱり何となくできることではないですね。心の奥で多くの人が望んでいるのはこんな生き方じゃないでしょうか。安田さん、ありがとうございました。

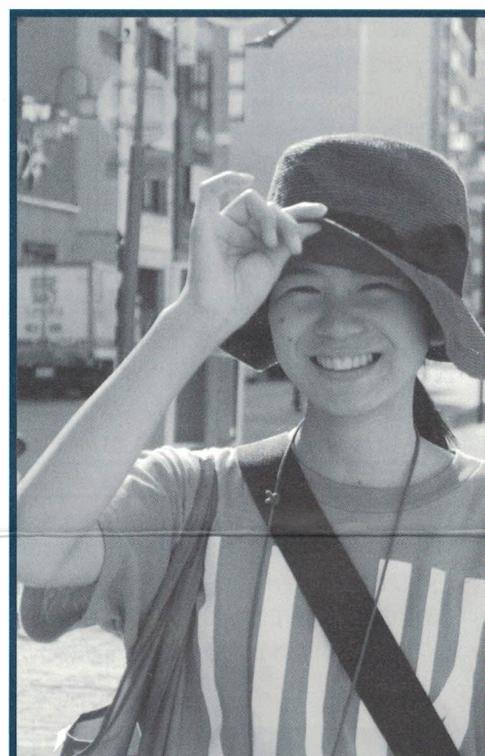
ブログ <http://koha-omise.petit.cc/>

リアリティある教育を
山田 敦子さん 37期卒



院を修了してすぐ半田市内の美術員として勤めて2年になる山田さん。女教員としての奮闘ぶりを伺いま

在学中は、学部、修士を通して美術館で実れる教育的プログラムの提案を研究テーマとしていました。美術館に展示されている作うち、1点に焦点を当て、造形性だけでなく、作家の生涯や、歴史的・文化的な背景など、的な視点から作品を見ることで、より深くを鑑賞することができると考え、学部論文小学校高学年、修士論文では学校の先生



夢中で駆け回る日々!

金沢 実徳さん

39期卒 アートクリエーター

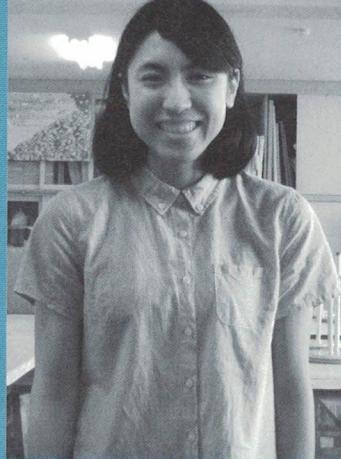
現代美術に関するコーディネート&コンサルティング事務所『有限会社オフィス・マチング・モウル』に勤める金沢さん。現開催中の「あいちトリエンナーレ2013」にて活躍中のところお話を伺いました。



店舗外観

お店の様子

安田さん近影



象にした鑑賞プログラムを提案しました。

また、2010年には、「加藤邸アートプロジェクト」において、のんびりと作品を鑑賞するワークショップ企画で参加するなど、鑑賞の様々な方法を模索しています。こうした在学中に学んだことを生かし、美術の授業を展開しています。

職場以外にも、愛知県内の美術教育関係者を中心とした美術教育の研究会に参加したり、教員を中心に構成されている勉強会に参加したり、また同学科の先輩とプログラムを企画したりと、視野を広げ、活動しています。

一教員として心がけている事は?

子どもたちとコミュニケーションを図ることはいつも大切にしています。美術の授業中はもちろん、休み時間は子どもたちと雑談をするように心掛けています。そのおかげか、授業中も和気あいあいとした雰囲気のなかで行うことができています。

また美術の授業では、子どもたちが少しでも作品制作に対して意欲的になるように、授業内容は意識して考えています。在学中、ワークショップなどを企画するとき、内容はもちろん、用い

るワークシートのデザインや環境設定の重要性を身につけたこともあり、授業で使うプリントや見本などはひとつひとつ丁寧に制作しています。

また、定期的に美術館に足を運ぶようにしています。自分自身が新鮮な目で作品と向き合うことで、子どもたちにも美術の楽しさを素直に伝えられると考えています。

——今後実現したい目標は何かありますか?

修士論文で学校教員が作品を深く鑑賞し、学校現場で生かすためのプログラムを提案しました。自分自身が教員になった今、改めて自分の提案したプログラムをみて、現実味の無さを痛感しました。一方で、教員が積極的に美術作品と向き合い、深く鑑賞する機会の必要性を改めて考えることができました。

教員としての日常を客観的に捉えながら、プログラムをブラッシュアップし、美術館で実施することが目標です。

また、子どもも大人ものんびりと作品を鑑賞するような、そんなゆったりとしたプログラムの楽しさも伝えていきたいですし、他にも楽しい鑑賞の仕方はあると思っているので、様々な鑑賞プログラムを考案し、活動を続けていきたいです。

——トリエンナーレでは「まちなか展開拡充事業 通称=まちトリ」という、期間中まちなかで展開される関連イベントの企画・運営をマッチング・モウルさんが担っているんですよね。金沢さんは、学生時代からマッチング・モウルさんに関わっていましたね。

はい。その前からアルバイトやボランティアとして関わっていて、アートの現場ってとても楽しいところだなって思いました。

——それでそのまま就職することにしたんですね。自分から申し出たんですか?

いえ、マッチング・モウルの方から打診がありました。でもその頃はアートのサポート側に関わりつつも、絵を描いていく行為、自分と向き合って自分のために描いていくっていうことも楽しくなっていった時期だったので迷いました。アートマネージメントの知識も無いし不安でしたので、4年生の時にインターンでお仕事をさせていただいて、それでやはりここで働くかせてもらおうと決めました。

——就職してみて、どうですか?毎日が充実してそんな印象です。

そうですね。学生のときからそうでしたけど、けっこう現場で忙しく走り回るっていうのは嫌いじゃなかったんです。でもいざ就職してみたら、覚悟はしていたんですが過酷で(笑)最初はびっくりしましたね。でもとにかく充実というか、毎日が一

杯一杯で1年目は過ぎていった感じがします。

——2年目でかなりお仕事は慣れてきましたか?

まだまだですけど、1年目は看板一つ作るのも、ただ言われるまま作ってました。今なら何故これが必要なのか、何のための看板なのか、そうやってひとつひとつの仕事を考えながら進められるようになってきました。

——過酷だと仰ってましたが、辛い…上手くいかない…なんて時もありますよね。

はい、はい、ありますよー!(笑)ディレクターや周りの方に怒られてしまう時もありますが、次は気をつけよう、凹んでも仕方ない、ってすぐ気持ちを切り替えるようにしています。

——内藤さんも「彼女はがんばってるよ!」と仰ってました。

ディレクターのお一人でもある内藤さんは優しい方ですが厳さもあり、でもちゃんと見守ってくれている先輩という安心感もあります。またプログラムディレクターである池田さんのように、一つの企画が立ち上がるまでを、ディレクションしていく立場になれたら…というのが今の目標です。将来そんなお仕事ができたらいいなと思っています。

仕事がとても楽しいと笑顔の金沢さん。何に対しても前向きな姿勢の彼女の話が印象的でした。アートの裏方として働く金沢さんの活躍を、これからも見守っていきたいです。



イベント会場の記録写真を撮影する金沢さん。

**2013.8.10—10.27開催の
「あいちトリエンナーレ2013」では、
金沢さんをはじめとして、多くの同窓生が
活躍しています。**

●菅沼朋香さん(35期卒 デザイン学科)／長者町会場／インスタレーション出品

●水野里奈さん(39期卒 絵画科洋画コース)／長者町会場企画コンペ

●AMR(Art Media Room)浅井雅弘さん+前川宗睦さん(共に院同時代表現研究修了・37期卒)+河村るみさん(32期卒絵画科洋画コース卒)／長者町会場企画コンペ

●岩野早苗さん(院美術研究科2013年度修了)／キッズトリエンナーレ担当エデュケーター

●[大学連携プロジェクト]

愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学が連携し、展覧会、座学、体験講座を実施。



今井 康徳さん
23期卒 デザイン科

岐阜県の萩原町にて、ひのきを使ったひのき畳床と、その「ひのき畳」を使って畳ベッドなどの家具製造販売を行い、最近では、新宿のリビングデザインセンターOZONEにて展示を開始したり、住宅雑誌「素住」に紹介されたりと活躍の場所を広げられている今井さんにお話を伺いました。

——会社を立ち上げたきっかけは何ですか？

岐阜県は桧の産地で、以前から間伐材の有効利用が課題であり、父がひのきを使って畳の床材ができるないか研究を始め、約10年の試行錯誤の結果、商品として販売できる品質になりました。が、売り上げは伸び悩んでいました。当時私は、三重県の会社で家具の設計を担当していましたが、会社を辞め、父の仕事をサポートするため岐阜に戻りました。生活スタイルの変化や、住宅の洋風化により、和室（畳）の減少が大きく、畳床だけでは経営が難しい状態であり、私が家具の設計・製造を行っていたこともあり、インターネットを活用して畳ベッドの開発・販売を始めました。畳ベッドという、とてもニッチな商品ということもあり、当初は本業を支える事業にな

ればと考えていましたが、想定以上に需要が多く、小泉誠氏のデザインのシリーズやアイテムの追加など、現在では主力商品となりました。とても特殊な家具ですが、インターネット向きの商品であったと感じています。また、他メーカーが本格的に参入していないこともあり、畳ベッド専門でもっと多くのアイテムを揃えるまでになりました。

——大学での経験は、今の仕事に繋がっていますか？

お客様に提案する際のイメージ図や図面は、大学で学んだ経験がつながっています。従来の畳ベッドはデザインが優れたものもなく、コンセプトから企画・商品作りまでの工程は、大学で学んだことの実践版でした。勿論デザインも大切ですが、最も重要なお客様への対応などは、スキー部での経験も大きいと思います。

——仕事をしていて、『良かった!!』と感じることはありますか？

直接販売を行っているため、納品後にお客様から“ありがとう！”と直に言っていただける事が嬉しいです。

ショールームの様子

Information

作品展に於ける 後援について

規約

名古屋芸術大学美術学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

1. 資格

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓生で会費を収めた者。

2. 後援金

個展・グループ展（参加者全員が同窓生であること）とも1回に二万円とし、各参加者につき年（期間：4月1日より翌年の3月末日まで）1回とする。但し、名義後援は認める。

3. 手続き

イ)会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。

ロ)作品展終了後1ヶ月以内に、DM及び

会場（作品）写真数点を添え報告書を提出する。（尚、DM及び写真は資料にするため返却不可。）

4. 条件

イ)作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」を明記する。

5. 再振込の手数料で本人負担について

イ)報告書の振込先に間違いがあった場合は、2万円から振込組戻し手数料（840円）と、再度振込時の手数料（三菱東京UFJ銀行宛315円・他行宛630円）を差し引いた金額を、後援金として入金させていただきます。

6. 問い合わせ・送付先

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会事務局宛
愛知県北名古屋市徳重西沼65
TEL 0568-24-0325

再度確認を！お願いします！

振込先の口座番号など、間違いが大変多くなっています。
書類をお送り頂く前に、もう一度番号などご確認ください。
よろしくお願いいたします。

様式1 後援依頼
○年○月○日
名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会
会長 青木 高弘 殿
第○期○○○科卒業
○○○○○○ 印

下記の作品展について後援をお願いします。

1)名 称 ○○○○展
2)場 所 ○○○ギャラリー
(住所・電話番号)
3)会 期 ○年○月○日～○年○月○日迄
4)代表者(出品者) 氏 名(第○期○○○科)
電話番号
郵便番号・住所

様式2 報告書
○年○月○日
名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会
会長 青木 高弘 殿
第○期○○○科卒業
○○○○○○ 印

1)名 称 ○○○○展
2)場 所 ○○○ギャラリー
(住所・電話番号)
3)会 期 ○年○月○日～○年○月○日迄
4)代表者(出品者) 郵便番号・住所
※氏 名 (第○期○○○科)・電話番号
注)※印は出品者全員記入

5)入場者数 ○○名
6)写真 写真○点添付致します。
以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。
振込先／○○銀行・○○支店・○○座・N.O.O
口座名義(フリガナ)

天才アーティストじゃない?
だったら自分の事は自分で!

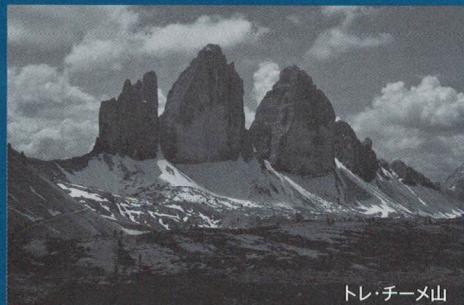
加藤朝美さん

13期卒 彫刻科

解体される築100年のチロルの大きな納屋を、壊す3ヶ月前にアートギャラリーに仕立て上げて展覧会を開いている。町と観光局と地元の住人を取り込んだ企画。イタリアのローマに35年在住の加藤朝美さんの動向が、これから作品発表のヒントになりそうです。

——どんな展覧会が開かれているか教えていただけますか?

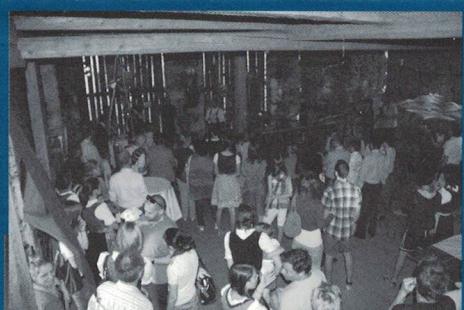
はい、7月6日から8月31日まで2ヶ月間、北イタリアのドロミテ(チロル地方)で開催しています。



トレ・チーメ山

夏のリゾート地でその町の中心に残った納屋ですから、観光客、地元の人の多くの方が見に来てくれています。まあ、ぼくの作品目当てではなくチロル式納屋の内部に興味を持って入ってくる人も多いですよね。(笑)

オープニング・パーティはボランティアと友人関係だけ呼んだら150人くらい集まってくれました。ワガママを言って伝統的なチロル服の着用をお願いしたら、各自主役になったようでエレガントな夜会になりました。



オープニング・パーティの様子

——どのような作品を展示しているのでしょうか?

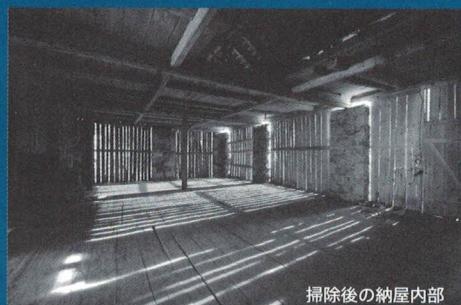
ドロミテの風景を彫刻した作品で、ブロンズ立体と樹脂のレリーフです。氷河で削れたスイスアルプス等と違い、ここは昔に海だった岩盤が何かで隆起して山になった地域を「ドロミテ」と呼びますから、天に向かって伸びる岩山や奇岩が多い不思議な山並です。彫刻に最適な景観なんです。それに4年前からユネスコの世界遺産になりました。



作品「リオ・プステリア関所」

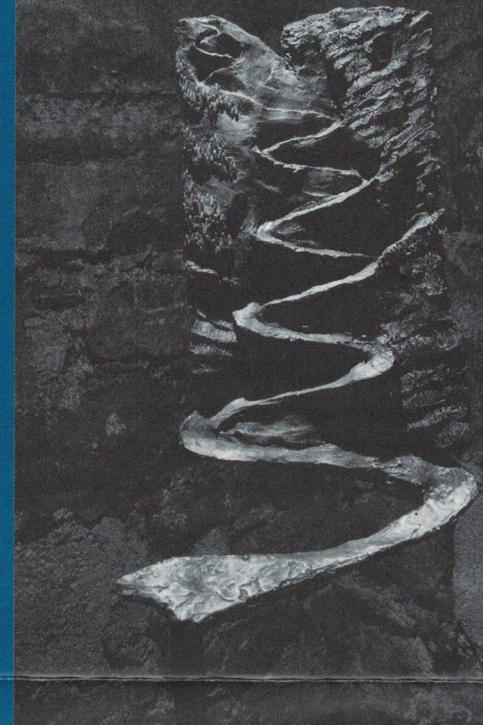
——1997年から2年間、母校の専任教師として戻られて学生に教えたことは?

学生に言い続けたことは「制作の時から並行して自分の展覧会を企画すること」。更に自分で案内状を作り、カタログを作り、スポンサーを探すこと。例えば画廊はぼくらの工房をノックして「是非、展覧会やってください」とは絶対いって来ない、だから自分で探し歩くこと。

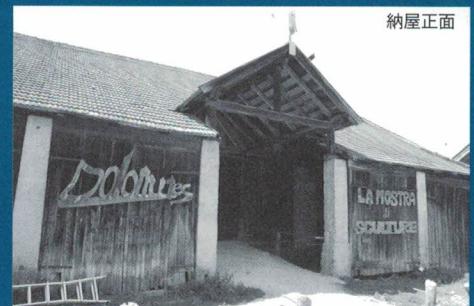


掃除後の納屋内部

じゃあ何処も展覧会をやってくれない場合?それは作家を目指すのを諦めるか、今回のようにアートスペースを自分の手で作っちゃえばいい。この納屋展覧会も3年前から企画を練って、



作品「S-S坂」



納屋正面

4週間かけて100年分のホコリを掃除して、計80個のLEDのスポットライトを買い揃え、それを自ら配線・設置して、作品を展示し、カタログを作って…。華やかなパーティーの裏にホコリだけのカッコ悪い(?)作家の姿があるんですね。

——ドロミテの作品を私達が日本で見られる可能性はあるのでしょうか?

まず、来年は新潮社からぼくの本が出版されます、5月頃かな。アーティストから見たドロミテの魅力を案内し、その作品モチーフとなった山々を訪ねる、写真を多く使った「とんぼの本」です。それと合わせて「ドロミテ」の作品を東京で発表できるよう、展覧会の企画をしているので、そこでご覧いただけるかなと思います。会期を出版と同じ年に合わせたいですね。それについてはイタリア側の観光局と話をすすめています。

面白い企画ですから、まずは展覧会の写真を同窓生の皆さんに見ていただきたいですね。僕の顔写真?そんなつまらないのは載せなくてもいいです。(笑)

——了解しました。

どうもお話ありがとうございました。

Event

第26回 同窓会総会・懇親会 開催のお知らせ

第26回同窓会総会を、この11月に開催いたします。

今回は場所を移しまして、名古屋市東区にございます「メルパルク名古屋」が会場となります。

総会では昨年度の活動報告、これから活動予定、予算の収支報告といった、会員の皆様にとって大事な内容を議事運営しております。懇親会だけではなく、総会からご参加くださいますようお願い申し上げます。総会後に行なわれます懇親会につきましては、会費無料（ご家族の方含む）でございます。

懐かしい先生方、ご友人との再会の場として、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

場所 メルパルク名古屋

〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵3-16-16

TEL 052-937-3535代

会場ホームページ

<http://www.mielparque.jp/nagoya/>

日 時 平成25年11月10日(日)

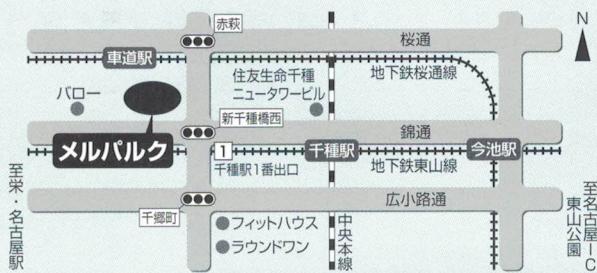
総 会 15:00より 2F 白鳥の間にて／受付は14:40時より

総会終了後、「輝の間」にて懇親会を行います／会費無料

※公共交通機関をご利用下さい。

懇親会のお料理にはアルコールが使用してある場合がございます。

お車でのご来場は、ご遠慮ください。



交通のご案内

- 地下鉄東山線千種駅（JR千種駅）1番出口すぐ
- 地下鉄桜通線車道駅3番出口 南へ徒歩2分
- 名古屋駅から千種駅までJR中央線快速使用で約9分
- 名古屋駅から千種駅まで地下鉄東山線使用で約8分
- 名古屋駅から車道駅まで地下鉄桜通線使用で約8分



評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	監査(税理士)	監査	理事	理事	理事	理事(書記)	理事(会計)	理事(会計)	理事長	副会長
39期	38期	38期	37期	37期	36期	35期	33期	33期	28期	28期	27期	22期	22期	4期	4期	23期	21期
日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	日本画	デザイン	彫刻	日本画	洋画	彫刻	デザイン	デザイン	デザイン	日本画	洋画
アトランタ	日本画	デザイン	彫刻	日本画	洋画	彫刻	デザイン	デザイン	デザイン	日本画	洋画						
川口聖生	磯部絢子	市川岳志	水野愛弓	中村朋恵	磯田衣里	永田敦子	福本百恵	長谷川基子	佐竹亞希子	加藤一郎	佐竹桂太郎	小竹陽子	鈴木琢磨	中島弘敬	小林聖知	鈴木淳子	浜辺由美
磯部絢子	市川岳志	水野愛弓	中村朋恵	磯田衣里	永田敦子	福本百恵	長谷川基子	佐竹亞希子	加藤一郎	佐竹桂太郎	小竹陽子	鈴木琢磨	中島弘敬	小林聖知	鈴木淳子	浜辺由美	青木高弘
																岡本昌子	石川重明
																白井久義	岩井義尚
																中村恵美子	芳賀基純
																平田隆宏	平田隆宏

同窓会役員紹介

[2013年9月現在]

記事へのお問い合わせは…

〒481-8535

愛知県北名古屋市徳重西沼65

名古屋芸術大学西キャンパス内

美術学部・デザイン学部同窓会事務局 宛

tel. 0568-24-0325 (大学代表)

fax. 0568-24-0326